

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 録

平成27年9月11日 午前9時30分 開議

出席委員

教 育 長	高 本 訓 久
委 員	林 正 美
委 員	小 田 伊佐浩
委 員	柳 瀬 ひろみ
委 員	菅 沼 由貴子

説明のための出席者

教育部長	柴 谷 好 輝
教育部次長	赤 谷 雄 助
教育部次長兼学校教育課長	松 平 貴 圭
教育部次長兼中央図書館長	中 森 利 仁
庶務課長	鈴 木 敏 彰
学校教育課主幹	山 田 佳 宏
生涯学習課長	前 田 清 彦
スポーツ課長	中 村 幸 夫
学校給食課長	大 林 充 始
中央図書館主幹	尾 崎 浩 司

教育長が指定した事務局職員

主 事	中 尾 成 利
-----	---------

議事日程

- 第1 議事録署名委員の指名
- 第2 第29号議案 教職員の任用について（非公開）
- 第3 第30号議案 平成26年度教育委員会事務の点検・評価報告書について

「高本教育長」 定刻になりましたので、只今から教育委員会を開会し、直ちに会議を開きます。始めに、日程第1、「議事録署名委員の指名」を行います。本日の議事録署名委員は、教育長において、林・柳瀬両委員を指名いたします。よろしく願いいたします。

次に日程第2、第29号議案「教職員の任用について」は職員の人事に関する案件ですので、議事を非公開とし、会議内容の議事を別に記録することとしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

異議なしと認め、第29号議案は非公開とします。それでは、日程第2、第29号議案「教職員の任用について」を議題といたします。事務局から提案内容の説明をお願いします。

「松平教育部次長」 第29号議案「教職員の任用について」を資料に基づいて説明。

(以下、議事内容は個人情報に関わるため議事を非公開)

「高本教育長」 次に日程第3、第30号議案「平成26年度教育委員会事務の点検・評価報告書について」を議題といたします。それでは事務局から提案事由の説明をお願いします。

「赤谷教育部次長」 別紙資料「平成26年度教育委員会事務の点検・評価報告書(概要)」に基づき、目的(法26条での義務)、点検・評価の対象(平成26年度事業)、主な事務の流れ(2回の教育委員会行政事務点検評価委員会の開催)、学識経験者の紹介(3名)、報告書の構成(大きく6つの構成)、学識経験者による評価数(4つの基本目標を実現する99施策に対して合計161件)について概要説明。

「各課長」 別紙資料「平成26年度教育委員会事務の点検・評価報告書」に沿って説明し、そのうち「Ⅲ 主要施策の自己点検及び学識経験者による評価」について以下の項目を説明。

【庶務課】

(1) 飛散防止フィルム貼りの取組み(シートNo. 39)

地震対策事業であるため、予算確保に努め、できるだけ早期に全小中学校完了することを求められている。

(2) 小中学校サポーターによる学校支援(シートNo. 47)

地域の方々から一層の協力を募る一方、大学生など幅広く募集をし、学校を支援する体制を作ること求められている。

(3) 老朽校舎などの計画的な整備(シートNo. 52)

老朽化した校舎の危険度を調査し、少しでも速やかに環境整備が進められることを求められている。

【学校教育課】

(1) 心の教育推進活動(シートNo. 1)

実践内容や研究成果について、他の学校と共有し、活用することを求められている。

- (2) 体験活動を通じた社会性の育成（シートNo. 2）
「きららの里」のビデオや新たなビデオ教材を利用し、事前学習に活用することを求められている。
- (3) 私たちの学び舎の歴史展の開催（シートNo. 3）
参観される皆さんに喜んでもらえるよう、さらに学校への関心がより高まるような企画展が開催されることを期待されている。
- (4) 臨床心理士などによる教育相談の拡充（シートNo. 6）
今後も、早期支援が行われるように、また、緊急性のある内容には、すぐに相談活動が行われるよう求められている。
- (5) 学校図書館巡回司書の配置（シートNo. 11）
巡回司書の活動がより充実するように、また、学校の司書教諭との連携を図ることができるように、勤務時間の延長を求められている。
- (6) 学級運営支援員の配置（シートNo. 34）
今後も支援員を適切に配置し、子ども達の学習環境を整えていくことを期待されている。
- (7) 災害時における防災教育への取り組み（シートNo. 36）
今後も学校と地域の連絡調整を図り、児童生徒の安全・安心を図ることを求められている。

【生涯学習課】

- (1) 家庭教育事業の推進・あらゆる機会における意識啓発の推進（シートNo. 14）
とよかわオープンカレッジの親子向け講座の開設を推進し、小さなお子さんを抱え家庭にとじこもりがちなお母さんの外出の機会を作り、お母さん同士の交流や仲間づくりの輪が広がるよう求められている。
- (2) 文化財のネットワーク化の推進、文化財の公開活用（シートNo. 20）
今後も「家庭教育」の重要性を説きながら、親子（父と子、母と子）で体験できる講座を多く開設できるよう、継続して取り組むことを期待されている。
- (3) 高等教育機関との連携（シートNo. 65）
今後も高度で専門的な学習の場を提供するため、高等教育機関など地域の教育力を最大限活用して、市民に魅力ある学習機会を提供することを求められている。
- (4) 地域生涯学習の推進（シートNo. 69）
今後は、長く続けられている講座はサークル活動とし、新たな講座の開設へつながることを期待されている。
- (5) 生涯学習成果発表会（シートNo. 74）
今後も、市民の生涯学習のきっかけ作りや生きがいがづくり、仲間づくりのため、また学習者間の交流を促進する取り組みとして、年2の生涯学習成果発

表会を継続して開催することを期待されている。

【スポーツ課】

(1) 豊川市陸上競技場の活用 (シートNo. 59)

今後とも、「する」「観る」「支える」スポーツとして、ボランティアスタッフの確保などに努め、大会運営に携わることを求められている。

(2) 体育施設における指定管理者制度の活用 (シートNo. 61)

今後とも、指定管理者との連携を密にして、市民が安心、納得して利用できるように、施設の維持運営に努めることを求められている。

(3) 総合型地域スポーツクラブの設立・育成 (シートNo. 78)

今後とも、学校体育との関係を図りつつ、地域の期待に応える計画を進めていくことを期待されている。

(4) 観るスポーツの振興 (シートNo. 80)

トップレベルのスポーツに触れることは、市民に夢と感動を与え、活力を生む源となるため、今後とも市民のスポーツ全体の意識の向上に努めることを求められている。

(5) 豊川市スポーツ振興計画の策定 (シートNo. 83)

「スポーツに関する市民意識調査」で把握した内容を元に、「豊川市スポーツ振興計画」の改訂版で企画された諸事業の実施に努め、スポーツ実施率の向上を図るように求められている。

【学校給食課】

(1) 食に関する指導の充実 (シートNo. 17)

今後も、生産者との交流を深め、感謝の心やメニューについて工夫する等、食に関する指導を継続していくことを希望する

(2) 学校給食の家庭及び地域との連携 (シートNo. 51)

基本的食生活の在り方や大切さを就学前から伝え、保護者の方々に理解や関心を持っていただくよう、他の機関とも協力して推進していくことを期待されている。

(3) 地域につながる食育の推進 (シートNo. 75)

豊川産の農産物を使用したイベント給食は、地元の農産物への関心を高めるためにも大変有効であると考えられるため、継続していくことを期待されている。

【中央図書館】

(1) 子ども読書活動「マイブックプロジェクト」の推進 (シートNo. 9)

今後は、生徒が参加しない理由を把握し、工夫していく必要があること、ま

た、プロジェクト後の学校図書館における本の貸し出し数などの変化を把握することを求められている。

(2) 「うち読～母と子の10分間～」(シートNo. 12)

「うち読」の良さや効果を広めるために、図書館の「読み聞かせボランティア」にも協力していただき、活動推進をしていくことを期待されている。

(3) 図書館施設などの整備(シートNo. 67)

各地域で同一の住民サービスを提供するための分館の整備充実や、人件費の削減効果も見込まれるICタグ導入について、調査・研究を進め、早急に整備を進めることを求められている。

「高本教育長」 それでは、幅広い提案ですが、只今の提案について、ご質疑がありましたらお願いします。

「菅沼委員」 平成25年度事業の評価に対する平成26年度中の対応状況が41件とのことですが、もっと多くの事業に対して意見をいただいた中で41件だと思います。その中で、対応できた事業として回答されたのが41件だと思うのですが、全体の何割程度に当たるのか、おおよそで結構ですので教えてください。

「鈴木庶務課長」 こちらの対応状況は41件ということでございますが、評価をいただいた平成25年度の総事業数は約85件でございます。

その他の事業につきましては、今後も事業の継続を求めるというご意見でしたので、特に対応についてのお答えはしておりません。

「高本教育長」 ありがとうございます。その他にございますか。

「林委員」 自己評価についてですが、「十分な成果をあげた」、「一定の成果をあげた」、「見直しや改善が必要」とありますが、評価する際の基準はあるのでしょうか。

なぜ質問したのかというと、生涯学習課のオープンカレッジですとか、スポーツ課の陸上競技場の活用といった事業は、成果が目に見える訳ですから、十分な成果をあげているなあと感じるのですが、成果が見えにくい事業については、十分な成果をあげていると書かれてあっても、我々、教育委員もそうですが、市民からも判断が難しいと思うのですが。

「鈴木庶務課長」 評価する際の基準でございますが、明確に目揃いを行うということは難しいところでありまして、現状では、事業に最も精通されている各所属長の判断で記載しております。

「林委員」 ありがとうございます。そうであるならば、私はもっと「十分な成果を上げた」という評価が増えても良いと思います。

例えば、生涯学習課の「ふるさと意識の醸成」ですが、これは豊川の文化・歴史をPRする最高の事業だと思っています。実際に多くの市民の方々が天平ロマンのイベントに参加されており、非常に注目度が高いわけですから、これこそ「十分な成果を上げた」という評価を付けて欲しいと思います。

中央図書館であれば、「マイブックプロジェクト」は非常に成果を上げている事業ですから、これこそ「十分な成果が出ている」と評価して、成果が出る事業であるからこそ、より一層事業を推進していきたいという意思表示を行っていただきたいと思います。

自己評価が少し謙虚すぎると感じました。

「高本教育長」 林委員から、具体的に生涯学習課と中央図書館の事業についてお話がありました。それぞれ生涯学習課長、中央図書館長から、自己評価に対してご説明することがありましたら、お願いします。

「前田生涯学習課長」 「ふるさと意識の醸成」でございますが、評価をする際には、原則的に前年度と比較して事業内容が増えていたり、新規企画が加わって成果が出ていたりする事業を「十分な成果をあげた」という評価をしている訳ですが、内容に変化がないものの、毎年成果をあげており継続を希望する事業については、どのように評価するかということが非常に難しいと感じています。

確かに、そういった事業に対しての評価が謙虚になりすぎている傾向はございますので、前年度からの継続事業であっても、十分効果が認められている事業であれば、今後はどんどんPRしていきたいと思えます。

「中森教育部次長」 私も同じ意見でございます。評価が控えめというのは、特に図書館の本ということになりますと、今、子どもたちが本を読んでも、効果が出るのは何年も先で、小学校・中学校で読んだことが大人になるころにそれが成果として、本を読むという習慣に結びつくと考えております。

そういった意味で、点検評価委員からも、気長に「マイブックプロジェクト」を継続して欲しいというご意見をいただいておりますので、本日、林委員よりいただいたご意見は、来年度予算要求の際にPRさせていただきたいと考えております。

「高本教育長」 教育委員会の事業の難しさの1つとして、すぐに成果が見られない、評価ができないということがございますが、実施することで何年か先に子どもたちや市民への効果が浸透していくことが見込まれる事業は、「十分な成果をあげた」と評価ができると思うのですが、現状では自己評価が難しいというお話がありました。点検評価委員から、「良い事業だから是非そのまま継続して下さい」という評価をいただいたということは、十分成果が見込まれると判断されたということですから、もう少し自信を持って自己評価をしても良いのではという、林委員からの応援のご意見ということでよろしかったでしょうか。

「林委員」 そうですね。ひとつ付け加えさせていただきたいのですが、マイブックプロジェクトは非常におもしろいですよね。これは、子どもたちの本離れを防ぐための一環として始めたと思うのですが、豊川の子どもたちは、それほど本離れしていないと私個人は感じています。むしろ、本離れが進んでいるのは大人たちで、この事業を利用して、大人たちに子どもたちからお勧め本を提案するなど、学校の中だけの活動に留めるのではなく、この事業を市民に回帰することができないか、是非、検討して

いただけると嬉しいです。

「中森教育部次長」 家庭教育、学校教育、そして社会教育という事で、生涯学習体系全体を考えますと、まさにその通りだと思います。おそらく、受験勉強等の理由で高校に入ってから読書をする率が一旦落ちます。ただ、大学に入り、そして社会人になっていく過程で、本を読む習慣の土台を作ることが、私どもの役割だと考えております。全体の底上げを行って、大人になっても本を読んでもいただくための働きかけをしないと、文字・活字文化の振興に寄与できませんので、そのような活動を実施していくことについても考えております。

「高本教育長」 他にご意見はありませんか。

「小田委員」 私が感じたのは、まず、この報告書に目を通すことが大変です。評価報告書で事業内容が詳細に書かれている点は良いと思いますが、評価点をつけることで事業の成果を分かりやすくすることはできないでしょうか。先の説明にもありましたように、事業の特性によって点数での評価がし難いといった問題はあると思いますが、評価委員からの評価点を、5点制で3.5点を目標として事業に取り組むなど、方法はあると思います。

評価委員の皆さんからのご意見やご指摘はすばらしくて、1件1件丁寧に見ていただいていると思いますけれど、これをそのまま公開されても、市民が簡単に見ることはできないと思いますので、市民からも分かりやすく評価を数値でグラフ化できるように検討していただきたいです。

また、報告書に今後の取り組みの記載があると言う事は、一定の成果や十分な成果をあげたという自己評価と相反することになると思います。事業の内容によっては、成果が認められつつ、継続が必要な事業もある訳ですから、自己評価の選択肢に「今後も事業の継続が必要である」という主旨のものを加えて、先ほど中森次長からも説明がありましたように、次年度以降の予算確保のための理由としても使っていけば良いのではないかと思います。

「高本教育長」 ありがとうございます。ただ今の小田委員のご意見に関連することですが、概要の5ページに、市民への公表について記載がありますが、市民への公表については、どの程度、どのような形での公表になりますか。

「鈴木庶務課長」 市民への公表としましては、ホームページにこの冊子をPDF化したものを掲載するほか、各図書館、各支所、各公民館等で、冊子を閲覧することができます。

「小田委員」 来年度以降、より見やすい報告書に改善されることを望みます。

「高本教育長」 他にご意見はありませんか。

「林委員」 学校教育課の事業ですが、本当にきめ細かい対応をされているとあらためて感じましたが、成果を出すためには、家庭や地域との連携が必要なものばかりですよ。それはその通りだと私は思いますが、例えば、小中学校PTA連絡協議会等に積極的に働きかけていくという記載がどこにもないですよ。そういったことを今後

は取り入れていかれたらどうかと思います。小中学校PTA連絡協議会に対しては補助金を交付していますし、教育委員会として連携について依頼しても良いのではないかと思います。

また、もっと市全体で取り組んでいくような案を出していくべきではないかと感じます。例えば、成人病講座や思春期講座にしても、参加者が少なくて困っているということが書いてありますが、そうであれば、もっともっと市全体で取り組んでいくべきだと思います。

「高本教育長」 ありがとうございます。家庭・地域、保護者との連携についての記載があったほうが良いといったご意見ですが、PTAとの協力や連携ということについて、学校教育課から説明はありますか。

「松平教育部次長」 本当に、林委員の言われるとおりでございまして、家庭や地域の役割も含めて非常に重要でありますし、学校がやるべきことを明確にさせる事も大事ですし、連携を図って行くことが重要であると思っております。

小中学校PTA連絡協議会との連携ということで、例えば、今までですとスマートフォンの使い方などで連携して進めている状況でございます。その他にも、各学校におきましてもそれぞれ独自に連携を図っている部分もございしますが、さらに連携を図ることについて考えていきたいと思っております。

「林委員」 はい、分かりました。

「菅沼委員」 前回、健全育成の助成金の話もできましたよね。だんだん開かれた学校にはなっていますが、地域によってやはり温度差があると思います。小中学校PTA連絡協議会や保護者、学校が健全育成に力を入れたいと思っても出来ない状況だと良くないので、豊川市内で差がなくなるように、学校教育課とも連携してやっていると良いと思います。

「高本教育長」 校区の健全育成には、学校関係だと学校長が入っていることが多いですか。

「松平教育部次長」 教頭や生活指導の担当教員が出席することもあります。

「高本教育長」 他にありますか。

「柳瀬委員」 私が一番興味を持っているのは、学校教育課の幼児研究会等の取り組みです。自分も子育てをして、小学校・中学校、保育園・幼稚園の連携は常に大事であると思っています。年に何回か開催していますが、保護者がもっと参加することができて、いろんなことを考え、お互いに知らない部分を共有することができるような機会があることはすごく大事だと思います。保護者、地域、学校で子育てが成り立つということは常に言われていることですので、教育委員会がその関係の形成に努めていくことで、先生方や保護者も参加できる機会が多くなっていくのではないかと思います。

「高本教育長」 ありがとうございます。就学前のお子さんをお持ちの方々、お子さんが小学校へ入学するにあたって不安があると思うので、保育園・幼稚園、小学校

の連携というのは大事だと思うのですが、学校教育課から幼児教育の現状で何かご存知のことがあったら教えてください。

「松平教育部次長」 少し回数は減った部分もありますが、会の開催方法などをいろいろ変えながら、よりいい方向へもっていけるように努めています。委員さんが言われたように、保育園・幼稚園から小学校となると、登下校も含めて生活が大幅に変わる部分があるものですから、保護者の方も不安や心配が多々あるかと思います。

保育士さんに小学校低学年の様子を見てもらうことは行っていましたが、小学校の教員が保育園・幼稚園の様子を見る機会はありませんでしたので、情報交換を行いながら、ポイントを絞って連携の方法を考えていくことが大事であると思っています。

「柳瀬委員」 話が変わってしまいますが、保育園・幼稚園から、小学校へ入学するお子さんの指導要綱などの資料が提出されるのですか。

「松平教育部次長」 そういった資料も送られていますし、また送られた資料を参考に、小学校の教員が入学前の打ち合わせをしています。

「柳瀬委員」 参考にしているのですね。

「松平教育部次長」 そのとおりです。例えば、支援の必要な子どもたちに対する情報交換というのも当然行われていますし、クラス編成も含めて調整を図っております。

「高本教育長」 初めてお子さんが小学校に入学される保護者の方は、学校生活の様子が分かりませんからね。現在でも小学校の学校の日はあるけれど、例えば、保育園・幼稚園の保護者を対象にした授業参観、これから上がる子をお持ちの保護者の方を対象にした、小学校見学ツアーみたいなものを行っている小学校がありますか。保育園・幼稚園の保護者を対象にした授業参観はあまり聞いた事がないです。

「菅沼委員」 体験入園に近いことは、以前から保育園・幼稚園が未満児を対象に、月に一回程度実施しています。こういったことが出来るといいですね。

「高本教育長」 小学校は保育園児・幼稚園児の保護者を対象にした事業があまりなくて、入学説明会で突然という状況にあるというご意見ですね。

「菅沼委員」 学校の日にもう少し、保育園児や幼稚園児の保護者に学校へ来ませんかと呼びかけていくといいですね。

「高本教育長」 菅沼委員さんが言われるように、確かに、学校の日は児童生徒の保護者や地域の方々が主な対象になっているけれど、どうですか。

「菅沼委員」 地域に回覧板は回りますけれど、具体的に誘われないと行くのが難しいと思います。

「小田委員」 小学校の先生は保育園・幼稚園の園長さんと何回か会議を行っていて、園児が小学校1年生の授業を教室で受けたりする学校もあるようです。

「高本教育長」 保育園・幼稚園のお子さんをお持ちの保護者の方々への働きかけについて、学校の日での検討委員会でも話題にさせていただくのがいいかもしれませんね。いいご意見をいただきました。

その他にいかがでしょうか。

「菅沼委員」 報告書61ページの学校給食課の給食試食ですが、私自身が知りたいなと思ったことですが、実施状況の表で、各学校での試食会は平成26年度だと29団体に対して実施したとなっていますが、29校で行ったわけではなくて、1つの小学校で何度か実施しているということですか。

「大林給食課長」 校数ではなく、実施したPTAなどの団体数です。

「菅沼委員」 そうなると、全校で実施しているのではなく、ひとつの小学校でたくさん実施している場合もあるのですか。例えば、1校でPTAと地域の民生委員さんを対象に2回実施するなど。

「大林給食課長」 極端に偏っていることはありません。実施しているのはPTAが多いです。

「菅沼委員」 大体の小学校で行われているのですか。

「大林給食課長」 はい。

「菅沼委員」 差があると思って聞いたのですが。

「高本教育長」 29団体ということは、ほぼ全部の小学校で実施されているわけですよ。

「大林給食課長」 小学校はそうです。

「菅沼委員」 私が民生委員をしていたときに、小学校から試食会のお誘いがあった、給食を食べさせてもらった事があるのですが、地域から試食会を開催してほしいという要望があれば、学校は対応してくれますか。

このような機会を設けることは準備が大変なので、実施に対して少し難色を示した学校も数校あったと聞いたので、どのような状況か伺いました。PTAに対しては毎年実施していると思いますが、地域に対しても試食会をやっていただくと、学校給食の様子がわかって良いと思います。

「高本教育長」 難色を示すのは学校側の問題で、学校給食課としてはどうですか。

「大林給食課長」 給食センターの見学、試食ですとだいたい10人程度の単位で申し込みいただければ、給食のある時期であればお受けしています。

「菅沼委員」 学校給食センターへは何回か訪問したことがあります。快く対応していただきました。

「高本教育長」 学校に勤務していた時は、学校に相談されたら、学校給食センターへ直接相談してくださいと案内をしていました。

「小田委員」 学校で保護者が給食を食べるということですか。

「菅沼委員」 そうです。PTAを対象に行っていますよ。

「柳瀬委員」 給食参観というようなイベントで実施していますよね。

「小田委員」 そういった対応もできるのですか。食器の数は大丈夫ですか。

「柳瀬委員」 余分があるようで、参加者の分もきちんと用意していただきました。

「小田委員」 給食センターでは、それだけ食材や食器の余裕があるのですか。

「大林給食課長」 2日前までに食数を言っていただければ、その分を用意して学校にお届けしています。食器等も予備がありますので、それを使っています。

「小田委員」 予備にも限界はあるから、全校が学校の日にやりますと言われても困りますよね。

「菅沼委員」 人数が多いので。

「小田委員」 そうですよね。

「高本教育長」 基本的にはどのくらい前に申請すれば対応してもらえるんですか。

「大林給食課長」 通常は10日前ですけれども、最終的な食数の変更につきましては2日前になってしまいます。

「小田委員」 1つ1つの事業はすばらしくやっていて、そのPRというか、もう少し横のネットワークを活用すると、相乗効果が出てくるかも知れないですね。他の学校の実施結果が良ければ、難色を示した学校も行うのではないですか。

「菅沼委員」 やりたくないというより、時間の問題ですよ。みんなで食べるだけではなくて、私達は給食参観を兼ねてそれぞれの教室に呼んでいただいていたのですが、それもやはり大変な事もあるのかと思います。

ただ、学校の日には特別な雰囲気になっているので、地域の方々の中には通常時の給食の様子を見たいと言われる方もいらっしゃいますので、学校見学も兼ねて行っていただければありがたいと思います。

「高本教育長」 他にはよろしいでしょうか。

「小田委員」 いいですか。私は何年か委員をやらせてもらっているのですが、長い間ずっと活動を見てきたのですが、本当に事業の内容は素晴らしいと思います。

あまり褒めるのもなんですが、どこの課も7年前からキチンと継続していて中身も精査されていて、いい状態にあるように思います。菅沼委員や林委員から発言がありましたが、更に新たなアイデアなども加えて、まずは教育委員会内のネットワークから、横のネットワークとして園児に関係する他部署に対しても広げていくと、豊川の思い描く教育が推進していくのではないかと思います。

「高本教育長」 ありがとうございます。私も1つ確認ですが、教育委員会の施策が99施策になっていますが、実際にはもっとたくさんの事業がありますよね。しかも、只今の小田委員のご意見にもあったように、今の状況を考えると更に進めていかなければならない、新たに取り組まなければならない課題や事業が控えていると思います。

しかし、良い施策だからといって継続して行っていくと、どんどん業務量が膨らんでいってしまい、今ですら精一杯なのが、更に膨れ上がってしまうことになります。そのあたりについて、実施すべき施策と、反対に、減らしていかなければいけない施策もあると思いますが、その兼ね合いというのは、どのような状況でしょうか。

「柴谷教育部長」 ここに載っている施策は、基本的には教育振興基本計画に掲げられた施策になります。それ以外の施策もございますが、教育振興基本計画そのものが4年前にできて、その計画を実現する施策を継続して実施していくということで抜粋し

ておりますが、時代の流れの中で新しく必要となる施策もありますので、そういったものも取り入れながら取り組んでおります。

話が変わってしまうかもしれませんが、今の教育振興基本計画は計画期間が平成28年度までということになっていますので、来年度には現在の計画の内容も継続しながら、あらためて計画を策定することになります。仕切り直してということになりますので、そういった意味では、現状に沿った施策を取り入れながら、更に教育振興基本計画を作るなかで、それと連動させてこの点検評価についても進めていきたいと思っております。ですから、新しい教育振興基本計画ができると、新しい施策が必要となる可能性がありますので、その場合には、教育委員会で連携をとりながら十分配慮していきたいと思っております。

「高本教育長」 ありがとうございます。突然の質問ですみません。確認したかったのは、ここに出てくる事業というのは、部長が説明されたように教育振興基本計画に掲げられた事業でありますので、来年度の教育振興基本計画の見直しをどうしていくかというところが実は重要になっていくということを確認させていただきました。

その他にご意見ありますか。

「小田委員」 事業が増えたとしても、業務として捉えるとそれぞれ共通点があって、問題点の共通化もありますから、大丈夫だと思います。私たち民間の仕事でもそうですけれど、自主点検して不具合を見つけ、その対策を実施します。その対策を解析して、共通するカテゴリーの仕事に対策を実施することができるようになるというように、横に事業を展開していくわけです。そのような展開をしていくことで、問題点の把握や不具合の事前防止にも繋がりますので、実施する事業が増えていっても、安定して継続することができます。それが慣れてくると、新しいアイデアのクリエイティブな事業にまた力を注ぐことができるというような、良い循環ができると思います。

「柴谷教育部長」 点検評価について補足させていただきますと、豊川市ではこのように多くの施策について点検評価を実施していますが、他市の状況を見ますと、特定の施策を抜粋して点検評価を行っているところもあります。非常に数多くの施策を、点検評価委員、教育委員の皆様には大変な労力で相当細かく、真剣に見ていただいている中で、どの程度まで報告書にすれば良いかという検討も必要かと思っておりますが、どうしても事業計画を進めていくうえでは、このような点検を行わないと確認もできませんので、私としましては、基本的に教育振興基本計画に関わる全ての施策を、報告書にまとめたいと思っております。

「高本教育長」 そういう考えでの報告書であるということですね。その他にございませんでしょうか。

「柳瀬委員」 児童クラブの担当課はどこになりますか。

「柴谷教育部長」 児童クラブは子ども課です

「柳瀬委員」 先生方は児童クラブについては分かっていませんか。

「柴谷教育部長」 ある程度は分かっています。

「高本教育長」 何かお聞きになりたいことがありますか。

「柳瀬委員」 児童クラブについても、問題がいろいろあると話を聞くので、そのあたりの指導やフォローを学校や教育委員会ではしていただけないのでしょうか。

「柴谷教育部長」 児童クラブについては、先生方が直接関わっているわけではないですが、やはり学校の中で児童クラブが成立しているところもありますので、そういった意味では児童クラブと学校との連携というのは常にはないといけないものですから、なにか問題があれば対応いたします。

「柳瀬委員」 分かりました。

「菅沼委員」 児童館にあるような、地域の人も含めた連携会議のようなものがあると良いと思いますが、児童クラブは連携会議がないですね。

「柳瀬委員」 そうですね、児童館はありますが児童クラブはないですね。

「菅沼委員」 運営が大変かもしれませんが、連絡会議があるといいですね。

「小田委員」 学校によっては、学校長がコミュニケーションを図ったり、児童クラブの方を学区評議委員に入れたりしているのではないですか。

「菅沼委員」 そのようにすれば連携が図れますよね。

「小田委員」 御津南部小学校はそうでしたよ。

「柳瀬委員」 預けたいという親が増えてくると、内容にも注目が集まるようになりますね。

「高本教育長」 今年になって対象の学年が広がって、システムが変わっているのですね。

「柳瀬委員」 国からの指示があるとは思いますが、子どもたちの事を考えて市は対応していただきたいですね。

「柴谷教育部長」 夏休みになると人数が増えますが、建物のキャパシティの問題もありますのでね。

「柳瀬委員」 使用する教室の問題などありますから、教育委員会もそういった対応をしていただけると良いですね。

「高本教育長」 他にありませんか。なければ採決を行います。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

「高本教育長」 異議なしと認め日程第3、第30号議案「平成26年度教育委員会事務の点検・評価報告書について」は原案のとおり可決されました。

本日の会議に付議されました案件は以上ですので、これで本委員会を閉会します。ありがとうございました。

(午前10時55分 閉会)